



至誠

～今年度スローガン～

農林マナーアップ宣言

・挨拶マナーアップ ・身だしなみマナーアップ ・学ぶ姿勢マナーアップ

学校HP <http://cms.saga-ed.jp/hp/imarinourinkoukou/home/homeMain.do>

電話番号 0955-23-4138 FAX 0955-20-1002



～繋ぐ みんなが輝ける体育祭に～

9月6日(金)に第72回体育祭を開催しました。8月19日より体育祭本番に向けて各科とも創意工夫し、パネル製作、創作ダンスや競技練習に汗を流し、準備を進めました。その成果、頑張りに応えるように当日は澄み渡る青空の下で素晴らしい体育祭ができました。午前の部は、科の絆が試される「長縄跳び」や「台風の目」、みんなの力を集結させる「綱引き」などが行われ、白熱の勝負を見せてくれました。午後の部では、最大の見せ場となる応援合戦が行われ、各団とも団長を中心にダンスや演舞を披露するなど、素晴らしいパフォーマンスと団結力を見せてくれました。そして見事、総合優勝に輝いたのは食品化学科でした。

他の団もよくまとまり、スローガンのようにみんなが輝ける体育祭でした。平日にも関わらず、会場に足をお運びいただいた保護者の皆様方、本当にありがとうございました。



宣誓!

4人で力合わせて



一致団結



堂々とした舞



中学生、ようこそ伊万里実業高校へ!!

8月23日(金)に中学生一日体験入学を行いました。当日は146名の中学生に参加して頂き、各科の実験実習を通じて、本校の特色ある授業を体験してもらいました。中学生は実験の内容に驚いたり、熱心に実習に取り組む中で、「本校で学びたい」「実験は楽しい」という気持ちを持ってくれたのではないかと思います。今後の入試に向けて、進路選択の良き参考になればと思います。



フードルちゃん緊張ぎみ

ウサちゃんかわいい

生物科学科では、アニマルセラピーを目的とした「動物とのふれあい」や「フラワーアレンジメント」を体験しました。ふれあい体験では、実際に動物に触れ合うことで心が癒され、フラワーアレンジメントでは花の色や配置、模様などで中学生が思い思いの作品を作っていました。



真剣に取り組んでいます

フードビジネス科では、「ボルガパン」の製造実習や「アルギン酸ビーズ作り」の化学実験を行いました。パン製造実習では、パン生地の成型から焼き上げまで行い、ラベル作りで作ったオリジナルラベルを袋に貼り、お土産として持ち帰りました。アルギン酸ビーズ作り体験では、化学反応のおもしろさを体験しました。



コンクリート製造

森林環境科では「木材加工」や「測量体験」、「コンクリート製造実験」、「ドローン体験」など魅力溢れる体験を行いました。木材加工では万能台を製作し、慣れない手つきながらも懸命に作りました。測量では最新のトータルステーションを使って距離を正確に測り、とても興味深そうに計測していました。「コンクリート製造実験」ではコンクリートの強度を考えたり、コンクリートがどのようにして作られるのかを実験を通じて学ぶ事で、さまざまな構造物に利用されるコンクリートについて学習しました。ドローン体験では実際に操縦することで最先端のドローン技術を体験しました。

『2年生進路実現に向けて』

夏休みの7月下旬、2年生は地域の事業所でのインターンシップに取り組みました。今年度も外部の講師よりマナーや挨拶について事前に学び、各科に関連する企業を中心に3日間お世話になりました。日頃の学習内容を実際に現場で体験することにより、プロの技術や専門的な知識に間近で触れることができ、貴重な体験になったと思います。また、仕事をする楽しさや厳しさ、やりがいを感じる事ができたと思います。これらのことを自分自身の進路実現に活かして欲しいと思います。



農林生活躍！！農ク九州大会最優秀賞、優秀賞受賞

8月6日（火）～8日（木）にかけて沖縄県で九州学校農業クラブ連盟大会が開催され、県大会を勝ち抜いて、プロジェクト発表「分野Ⅰ類」「分野Ⅲ類」、意見発表「分野Ⅱ類」の3部門に県代表として出場しました。

プロジェクト発表「分野Ⅰ類」の山鹿聖司さん他5名は、地域農業の活性化に貢献したいという思いを込め、中山間地域の維持、発展に向けた活動を発表しました。

プロジェクト発表「分野Ⅱ類」の金ヶ江 裕賢さん 他5名は、伊万里市を中心に街の活性化や食品を用いて地域貢献を目指した活動を発表し、優秀賞を受賞しました。

意見発表「分野Ⅱ類」では食品化学科3年の岩野美彩さんが、卒業後の将来を見据え、自分自身が経験した高校生カフェや校外販売会で感じたこと、考えていることを訴え、見事、最優秀賞を受賞しました。

なお、岩野さんは、10月に宮城県で開催される全国大会へ出場します。どの生徒もこれまで活動や発表練習に励み、努力を重ねてきました。これまでの活動や大会を通して大きく成長したのではないのでしょうか。これからの活躍にも期待したいと思います。



最優秀賞おめでとうございます！！

復興に向けて 人と人の助け合い

九州北部豪雨災害から約2か月。本校生徒が参加した復興ボランティアの様子を紹介します。

8月27日から28日にかけて九州北部を襲った豪雨により、武雄市内の多くの民家や施設が浸水被害を受けました。私の住む若木町は武雄市街地から少し離れたところにあるため、大きな被災はありませんでしたが、テレビや新聞で「中心部や近隣の市町村が甚大な被害にあっている」ということを知りました。武雄市民ネットワークの連絡を受け、ボランティアの計画があることを知り、「同じ市民として何かできることはないか。今こそ助け合いが必要」と感じ、被災された地域の復興支援ボランティアに参加しました。

当日の朝、すでに東京や大阪などの県外からも多くのボランティアの方々がボランティア受付所に駆けつけていました。その時、「すごい。これこそ助け合いだ」と思うと同時に、「人と人の絆」を感じました。6人1組の班となり、被災現場に向かいました。私が伺った田中さんの自宅は、二階建ての一軒家で一階がほぼ浸水したとの事でした。すでに水は引いていましたが、部屋中に家財道具が散乱していました。田中さんが作業をしながら当時の出来事を話してくださいました。「あの夜は大雨の降りよったけん、なんか怖かなくて思いよって、いつもは一階で寝よるけどそんな時ばっかいは、二階に寝たとさね。寝ようとしても雨の音が気になって寝れなかったよ。自然の力にはかなわなくなってわかったよ。」と聞き「被害の大きさ」や「自然の怖さ」を改めて感じました。復興作業は水を吸いこんだ畳の撤去から始まりました。たっぷりと水を吸った畳を4人がかりで外に出し、次に浸水した電化製品の撤去と台所にある食器等をすべて外に出しました。一階は全ての物が無くなり、その光景を見て、自然災害は一瞬で人の財産や命を失わせるとても怖いものであり、日頃の備えの必要性を改めて感じました。夕方に作業が終了し、田中さんから「ありがとうございました。この御恩は一生忘れません。」と言われました。その一言を聞き、どこか胸が痛くなりました。今回、ボランティアに参加したことで人の気持ちに寄り添い、人の立場に立って考え行動することの大切さが理解できたように思います。

森林工学科3年 緒方 敦也(武雄北中卒)



陸上部 お世話になっている整骨院の方のために

日頃からお世話になっている大町の整骨院の被災状況を顧問の先生から聞き、8月31日(土)に監督・部員でボランティアに出向きました。大町町に近づくと、浸水の跡が痛々しく残る風景に言葉を失いました。整骨院に着くと、院長先生より「近隣の民家が被害が大きく、高齢者ばかりなので、そちらをお手伝い願いませんか。」との言葉を受け、私たちは院周辺での活動に一心不乱に励みました。民家から畳や家具などを取り出し、農林のトラックに載せる作業を繰り返しましたが集積所の野球場は家財道具でいっぱいとなる状況でした。お年寄りの方も自分たちではどうにもできない状況に戸惑っておられていましたが、作業が進むにつれて少しずつ笑顔も見られるようになりました。作業を終え、被災された方々より「ありがとう」「助かったよ」の言葉を頂き、被害に遭われた方々の役に立てたことがとても心に残りました。

この活動で困られている方々に対し、自分にできることを見つけ行動することの大切さを改めて感じ、仲間とその気持ちを共有できたことが良かったと思います。

食品化学科2年 杉原 悠太(東陵中卒)

